

8	CAS 番号：124-09-4	物質名：1,6-ヘキサンジアミン
---	-----------------	------------------

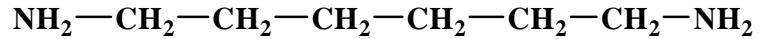
化審法官報告示整理番：2-153

化管法政令番号：1-292

分子式：C<sub>6</sub>H<sub>16</sub>N<sub>2</sub>

構造式：

分子量：116.21



### 1. 物質に関する基本的事項

本物質の水溶解度は自由混和で、分配係数（1-オクタノール/水）(log Kow)は 0.35（計算値）、蒸気圧は 0.118 mmHg(=15.7Pa)（外挿値、25℃）である。分解性は良好な物質であり、加水分解性の基をもたない物質とされている。

本物質は化学物質排出把握管理促進法（化管法）第一種指定化学物質に指定されている。主な用途、排出源は合成樹脂原料（ポリアミド（ナイロン 66）、ポリウレタン）とされている。平成 15 年の輸出量は 66t、輸入量は 39,565t とされており、化管法の製造・輸入量区分は 10,000t である。

### 2. ばく露評価

化管法に基づく平成 15 年度の環境中への総排出量は 46t となり、そのうち届出排出量は 46t であった。届出排出量の排出先は公共用水域への排出量が多い。届出排出量の多い業種は、大気・公共用水域ともに化学工業であった。

届出外排出量を含めた環境中への排出は水域が大部分を占めており、多媒体モデルにより予測した環境中での媒体別分配割合も 96.7%が水域であった。

水生生物に対するばく露を示す水環境中への予測環境中濃度（PEC）は、評価に耐える環境中濃度が得られていないため設定できなかった。

### 3. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類では緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* の生長阻害における 72 時間 EC<sub>50</sub> 18,600 μg/L、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における 48 時間 EC<sub>50</sub> 27,200μg/L、魚類ではメダカ *Oryzias latipes* の 96 時間 LC<sub>50</sub> 70,700 μg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度(PNEC)190 μg/L が得られた。慢性毒性値は、藻類では緑藻類 *P. subcapitata* の生長阻害における 72 時間 NOEC 10,000 μg/L、甲殻類ではオオミジンコ *D. magna* の繁殖阻害における 21 日間 NOEC 4,160 μg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく PNEC 値 42 μg/L が得られた。本物質の PNEC は、甲殻類の慢性毒性値から得られた 42 μg/L を採用した。

現時点では評価に耐える十分なデータが得られなかったことから、生態リスクの判定はできない。生産量、環境排出量等の推移を見守った上で、環境中濃度の把握の必要性を検討する必要があると考えられる。

有害性評価（PNECの根拠）			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (μg/L)	ばく露評価		PEC/ PNEC比	評価 結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (μg/L)		
甲殻類	慢性	NOEC 繁殖阻害	100	42	淡水	—	—	×
					海水	—		

#### 4. 結論

	結論	判定
生態リスク	生態リスクの判定はできない。生産量、環境排出量等の推移を見守った上で、環境中濃度の把握の必要性を検討する必要があると考えられる。	×

[リスクの判定] ○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要、■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない